

「夜間中学シンポジウム」の際にお寄せいただいた、新潟市が設置する夜間中学に対する質問への回答

	ご質問の概要	ご質問に対する市の回答
1	明鏡高校は駅から離れており、生徒への負担が大きい。新潟駅に近い学校（中学校や保育園）に併設した方が良いのではないのでしょうか。	設置場所は、国が定める「中学校設置基準」を満たし、習熟度別学習を行うための一定数の教室や職員室となるスペースを確保できる施設であることが必要です。こうした条件を満たし、公共交通機関の利便性などを踏まえて検討した結果、新潟市立明鏡高校を設置予定場所としました。 公共交通機関の時刻に配慮した校時表を組むなど、少しでも生徒が通学しやすい環境づくりに努めます。
2	不登校傾向の学齢期の中学生は、新潟市が設置する夜間中学に通えますか。	新潟市が設置する夜間中学の入学対象者は、学齢期を過ぎた方（義務教育を受けるべき年齢を過ぎた方）としています。 不登校や不登校傾向の学齢生徒の居場所づくりや学びの保障のあり方については、様々な視点からの議論が必要です。夜間中学における学齢生徒の受け入れについては、今後、本市の不登校対応の全体的な方針を議論していく中で検討していきたいと考えています。
3	学齢期の生徒も通えるようにしてほしいです。	
4	「夜間中学」と「学びの多様化学校」の違いを教えてください。	「夜間中学」の入学対象者は、学齢期を過ぎた方です。様々な事情により義務教育を修了していないまま学齢期を過ぎた方や、不登校などの理由により十分な教育を受けられないまま中学校を形式的に卒業した方などに教育を受ける機会を提供しています。 「学びの多様化学校」の入学対象者は、不登校の学齢期の児童生徒です。児童生徒の状況に配慮し、教育課程の基準によらずに特別の教育課程を編成することができ、設置には文部科学省による指定が必要です。
5	入試を意識した授業とそうではない授業では違いがありますが、新潟市の夜間中学では、高校進学ニーズにどのように対応しますか。	一部の授業において習熟度別学習コースを設定し、高校進学を含めた多様なニーズに対応することを考えています。また、高校進学や就職に対するニーズに対応するため、進路指導主事を中心に、進路指導の充実を図ります。
6	新潟市が設置する夜間中学では、どのような特別支援教育が行われるのでしょうか。	実際に入学する生徒の状況等に応じ、必要な対応を検討していきます。
7	「加配定数に基づく教員の配置を検討する」と書かれていますが、どのような制度を活用するのですか。	国は、学校が個々に抱える課題を解決するため、都道府県や政令市からの申請を受け、学級担任等の基本的な教職員定数（基礎定数）とは別に、加配定数に基づく教員を配置しています。新潟市が設置する夜間中学においても、この制度の活用を検討しています。

8	<p>多くの生徒が自動車通学を希望した場合、駐車スペースは足りませんか。路上駐車をする生徒がないか不安です。</p>	<p>徒歩、自転車、公共交通機関での通学が原則ですが、仕事の都合などやむを得ない事情がある生徒に限り、高校内に駐車可能な範囲の中で自動車やバイクでの通学を認めることを検討しています。</p> <p>近隣住民の方の迷惑にならないよう、社会のルールやマナーについて、生徒にしっかりと指導していくとともに、困ったことが起きた際には、地域の方がどんなことでも学校に相談できるよう、地域と学校との関係づくりを進めていきたいと考えています。</p>
9	<p>情報を得られない方やニーズを表明できない方などに対して、地域や支援機関が夜間中学の利用を提案できるよう、地域や支援機関向けに夜間中学の見学会が定期的で開催されると良いのではと考えます。地域や支援者にも開かれた学校とすることについて、お考えや具体的な検討があれば教えてください。</p>	<p>学びを必要としている方に夜間中学に関する情報を届け、実際に入学していただくためには、関係機関や支援者の方との連携が欠かせないと考えています。今後、具体的な連携のあり方について検討していきます。</p>
10	<p>必要な方に必要な支援が届くためには、アクセスのハードルを下げるのが重要な要素のひとつになると考えます。夜間中学に関心のある方が実際につながるための手続き等は、どのようになる予定でしょうか。</p>	